

2-1

**Assemblage theory, occupational science, and the complexity of human agency**

**Sellar, Ben Published: 2009, June Volume: 16 Issue no: 2 Page number(s): 67-74**

集合理論・作業科学・推進力としての人の複雑さ

作業科学は、人の作業の複雑さを明らかにするための複雑な科学と哲学になり、過度に単純化された二元論を圧倒しつつある。しかし、これらのモデルの中にあつた人間／非人間や能動的／受動的のような二分法が無くなることは、推進力としての人（human agency）の位置を難しくするものでもある。私は、Delandaの集合理論（assemblage theory）は、複雑系において推進力(agency)を再考する一つの方法であると提案する。集合理論は、複雑理論と交わるものであり、人間と非人間の両方の過程を説明することができるので、作業科学にとって適切なものであるといえる。学問的集合体として枠づけられる作業科学は、集合理論において重要な、関係の重要さとダイナミックな過程としてのテリトリー形成という、二つの点に焦点を導くものとして用いられた。推進力は、人間の作業と行動に関わる分野においては重要な論点であるが、集合体から生じたものであり、人間の能動性と環境の受動性の二分法による対立は問題をもたらすものとして考察された（訳：近藤 知子）

Key words: Assemblage theory (集合理論), Complexity (複雑さ), Transaction (処理単位), Agency (推進力), 作業科学

Translated by Tomoko Kondo, Ph.D., OTR/L

Department of Occupational Therapy

Teikyo University of Science and Technology

2-2

**Outlining a critical ethos for historical work in occupational science and occupational therapy**

**Molke, Daniel 2009, Volume #16, Issue #2, June, Page 74-84**

作業科学と作業療法における歴史の仕事のための概略と批判精神（Critical ethos）

歴史を書くことは、書かれたものの性質を定義したり、再定義したりするのを助ける力強いプロセスである。本論では、批判的な歴史学手法の性質と目的の概略を示す。これは、フーコーの研究から示唆されたもので、作業科学と作業療法にとってよいものであることを説明する。批判的説明は、歴史と発展の性質がいかにその時代に優勢な西洋哲学言説によって説明されてきたかを暴き出すために使われる。私は、作業療法と作業科学の文献にみられる「歴史的発言」の批判的検討も始める。これはいかに歴史がルーチンに概念化されてきたかを発見するためである。作業療法と作業科学分野のメンバーが目的的楽天主義をもって歴史を

書くことができるよう、将来への提言をする。当然わかっているとされていることに注意を向けることによって、批判的な歴史は、この専門職と学問を、現代における新しく一層要求されることが多い目的の形成へと刺激することができる(吉川ひろみ).

(訳注: ethos はエートスと表記され、ある集団に行き渡っている(恒常的な)道徳的な慣習・雰囲気を指す。瞬間的な感情・激情を示すパトスの対語)

Key words: Foucault (フーコー), Critical history (批判的歴史学), Nietzsche (ニーチェ), Occupational Science (作業科学)

Translated by Hiromi Yoshikawa, MS, OTR/L

Department of Occupational Therapy

School of Health and Welfare

Prefectural University of Hiroshima

2-3

### **Occupational identity: Engaging socio-cultural perspectives**

**Phelan, Shanon and Kinsella, Elizabeth 2009, June Volume: 16 Issue no: 2 85-91**

作業的アイデンティティー (同一性): 社会-文化的視点の採用携わる

作業的アイデンティティー (同一性) は、個人が構成概念の核であるとし、自主性や自由な選択が普遍的に適用できるという考えのもとに概念化されてきた。しかし、作業療法士が、アイデンティティーの構成の社会的、文化的次元を認識し、作業科学者が理論産出の中で社会-文化的展望を包含することを大いに主唱している一方、これらの構成概念の妥当性についてはまだ十分検討されていない。この論文は、作業的アイデンティティーの概念化に情報を与える最近の仮説に焦点を当てている。個人、生産性、選択、社会の概念は、文化人類学、社会学、文化理論、哲学から導かれたアイデンティティーの新しい理論の観点から考察された。著者達は、社会-文化的理論の視点は、作業的アイデンティティーの概念化を促進するために生成的な識見を提供し、また社会的・文化的側面がどのように作業的アイデンティティーを形成するかを弁証的に理解するような注意を引き出すことになることを提案する。(訳: 村井 真由美)

Key Words: Occupational Identity (作業的アイデンティティー), Social constructionism (社会構成主義), Socio-cultural perspectives (社会-文化的視点), Theory (理論)

Translated by Mayumi Murai, Ph.D., OTR

Department of Rehabilitation

2-4

**The literature of occupational Science: a systematic, quantitative examination of peer-reviewed publications from 1996-2006**

**Glover, Jenny 2009, June Volume: 16 Issue no: 2 Page number(s): 92-103**

作業科学に関する文献：ピア・レビューされた1996年-2006年の文献の、体系的量的調査

作業科学に関する一連の知識に関して、体系的アプローチを用いて探った研究は少ない。本研究では、1996年から2006年の間に、明確に作業科学の文献であると分類され、ピア・レビューの行われているジャーナルに掲載された244の文献について、量的分析を行い、その結果を報告する。サンプルは4つの文献検索データベースから抽出され、結果は経時的に、出版に関連した変数によって統計的に分析された。結果、11年間にわたり、全体的な文献数、実証的研究の割合、質的研究方法のみの利用、特に障害のない参加者を対象とした研究、国レベルの助成金を受けていることの表記の全てが著しく増加していた。また、Journal of Occupational Science に発表されている文献と、著者が様々な学問分野からの人々であることに関して、強い関係性が見られた。結果からの示唆として、学問的知識の成長、研究基盤の特徴、助成金に関すること、また学際的協力といった視点から考察が行われた。(訳：浅羽エリック、浅羽秋絵).

Key words: History (歴史), Occupational science (作業科学), Research (研究), Research methodology (研究方法)

Translated by Akie Asaba, M.H.Sc., OTR/L

& Eric Asaba, Ph.D., OTR/L

Karolinska Institutet &

AMRF, Kohnan Hospital

Division of Occupational Therapy

2-5

**Understanding occupational transitions: a study of older rural men's retirement experiences**

**Wiseman, Leah and Whiteford, Gail 2009, June 16 Issue no: 2 Page number 104-109**

作業移行の理解：郊外に住む高齢男性の退職の経験に関する研究

この論文では、退職の経験を探求することを目的に、郊外に住む8名の高齢男性を対象に行った、フォーカスグループ面接と個人面接を用いたライフヒストリー研究の結果の一部を報告する。作業に視点をおいた分析では、理論的枠組みとして作業適応が導きだされ、研究への参加男性がオーストラリアの郊外という特殊な物理的、社会文化的文脈の中で退職へと移行した時に利用していた自然主義的な戦略を概念化するための基盤が得られた。結果から、作業適応は、人生において作業の移行に伴う挑戦に対して人々がいかにかうまく立ち向かっているかを理解するための非常に重要な枠組みになる可能性があることが示唆された（訳：坂上 真理）。

**Key words:** Adaptive process（適応過程）、Life history（ライフヒストリー）、Occupational adaptation（作業適応）

Translated by Mari Sakaue, Ph.D., OTR/L

Department of Occupational Therapy

Sapporo Medical University

2-6

### **The nature and meaning of occupational engagement for forensic clients living in the community**

**Lin, Nancy and Kirsh, Bonnie and Polatajko, Helen and Seto, Michael Published: 2009, Jun, 16, Issue no: 2, Page number(s): 110-119**

地域で生活する犯罪クライアントの作業従事の本質と意味

犯罪のために告発され、地域で生活している精神疾患を有する個人が、どのように時間を使い、そしてそのことについてどのように感じているのかについて研究したものはほとんどない。この研究の目的は、このような人々の作業従事の本質と意味を探究することであった。すべての参加者が自らの経験の記述を提供することが可能であることを確保するために、基準サンプリング（Criterion Sampling）が使われた。男性5名、女性5名の10名の参加者がインタビューガイドを使ってインタビューされた。Giorgi（2005）によって説明されたものから改変された記述的な現象学的方法が使われた。参加者による経験であることの信用性を高めるために、トライアングレーション、同僚での振り返り、研究者の偏り（バイアス）の解明、要素点検（メンバーチェック）、現象の濃い豊かな記述が行われた。法廷に関わる外来患者が地域に住むことにとって、作業従事の本質と意味の全体的構造は、正しいことをすること、他者とつながること、自由と責任の重要性、そして作業従事への挑戦に出会うことの4つの要素から成り立っていた。（訳：港 美雪）

**Key words:** Occupational engagement(作業従事), Meaning（意味）, Forensic（犯罪の）, Phenomenology（現象学）

Translated by Miyuki Minato, Ph.D., OTR/L

Department of Occupational Therapy

Kibi International University

2 - 7

**The right to work: experiences of employees with rheumatism**

**Jakobsen, Klara Published: 2009, June Volume: 16 Issue no: 2 Page number(s): 120-127**

働く権利：リウマチをもつ従業員の経験

本論は、減少した機能を持つ人にとっての雇用に対するバリアを述べ考察する。本論の考察の背景に存在する「働く権利」には、全ての人が自由に選択した賃金労働から生計を立てる権利と機会が含まれているという主張がある。一方、近年ノルウェーでは公平な機会と社会的公正を作るための取り組みがあったにもかかわらず、能力障害を持つ人の過半数は労働生活から締め出されている。リウマチのために減じられた能力をもつ女性被雇用者(n=11)が従業員としての経験をどのように述べるかを探究するために、彼女らは2回のフォーカス・グループ・ディスカッションに集められた。その結果は、バリアが、個人の能力と仕事の要件との不十分な釣り合い、および管理職と同僚の態度により生じていることを明らかにした。また、政治的主導と経済はこのグループの包含のために重要な役割を果たす。政策立案者がどのように社会的公正を構築しているのか、雇用者の役割、そして会社が多様性を管理する方法に積極的に焦点をあてることは包含的な雇用環境の実現のためには必要である。

**Key words :** Disability (障害), Employment (雇用), Social justice (社会的公正), Occupational Justice (作業的公正), Corporate responsibility (企業責任)

Translated by Ayumi Nishino, MSOT, OTR/L

Department of Occupational Therapy

Japanese School of Technology for Social Medicine